

南の国の「ジョーカー」税理士

成功へのキセキ

第64回 ジョーカーが危険な理由

話題の映画『ジョーカー』を観てきました！

(ネタバレ注意。あらすじを知りたくない方は、読まないでくださいね)

一言でいえば、観るのが辛いだけの映画。

これでもかと言うほど、主人公にひどいことばかり起きる。そして最後にはついに殺人鬼になる。とても感情移入できる内容ではありません。

テレビドラマだとしたら、途中で観のを止めて、チャンネルを変えたいような映画です。実際、120分の上映時間が、ものすごく長く感じられました。

それでも観終わった後、主人公の心模様に思いをはせ、こうして感想まで書いているのだから、見事に原作者の意図にハマっているのでしょう。

世の中には、ひどい事件が時々起こります。たとえば約20年前に神戸で起きた少年Aによる連続児童殺傷事件。最近ではスクールバスを待っていただけの子どもたちを殺傷した川崎市登戸通り魔事件など。

犯人が、なぜそんな事件を起こすにいたったのか、よく理解できず、「犯人の心の闇」というフレーズがよく使われます。『ジョーカー』は、普通の人間が殺人鬼となっていく心の過程を丁寧に説明していくこれまでにないタイプの映画といえます。

なぜ自分だけが、こんなに不条理な目に遭わなければならないのかと、心にマグマを抱えている人。

社会のどこにも居場所がなくて、孤独を感じている人。自分は何のために生まれてきたのかと苦しみ、愛情に飢えている人。

そんな人たちが、主人公に同調し、万が一にでも一線を越えるような事があつたら大変…と、アメリカでは上映にあたって警察や陸軍が警戒態勢を強化するという事態にまでなったそうです。

主人公のアーサーは、脳に障害をもち、他人とのコミュニケーションがうまく取れません。

母親から「辛いときには笑いなさい」と言われて育つたためか、文字どおり笑えない状況になるほど、なぜか笑いがこみ上げてくるのです。そして、一旦笑い始めると、自分でその笑いをコントロールすることができません。周りの人間からは、キモチワルイやつだと言われ、本人も自分の脳障害を自覚しています。

それでも、コメディアンになりたいという夢をもち、大道芸人として細々と生計をたてています。貧しさ故、自分は食べる物を削っても、母親の面倒をみる孝行息子で

もあります。

そんなアーサーに、次々と不条理な出来事が起こります。意味もなくギャングに殴られたり、市の福祉サービスが受けられなくなったり、仕事をクビになったり…。そして、最初の殺人。この時、彼は人を殺す(復讐する)快感を味わいます。

その後、アーサーは自分が大富豪の子どもではないかと妄想を抱き、逆に自分が母親の実子でないことを知ってしまいます。出生に関する書類には“unknown(不明)”の文字が…。さらにその書類には、脳の障害は母親の愛人から受けたDVが原因であると書かれていました。

ただ一人、彼を正気につなぎ止めていた愛すべき母親という存在を失ったアーサーは、ついに殺人鬼へと変貌し、自分を利用したり、馬鹿にした人を、次々と殺めていきます…。

ひどいストーリーです。見ていて辛いだけの映画。なぜ、この映画がこんなに人気があるのか、正直、理解できません。社会から疎外され、孤独に苦しんでいるからと言って、無差別殺人が許されるわけなど、ないからです。

それでも、『ジョーカー』がヒットしているのは、観客の多くが主人公に共感しているからではないかと思います。

「これは俺の(私の)物語だ」

そんな風を感じる人が、たくさんいるからです。実際、ネットで検索すると、「最高に楽しい映画だ」「これ以上ないハッピーエンドだ」などの書き込みがたくさんあります。

生きていと楽しいことばかりじゃない。もしかしたら、辛いことのほうが多いかもしれない。気分が悪い映画だという感想を抱く人と同じように、楽しい映画だ!と書き込む人たちも、日々を必死に生きている普通の人たちなのかもしれません。

私はと言

えば、映画を観ている間中、サ



児童養護施設の子ども達と八ヶ岳でキャンプ

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけでできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

ポートしている児童養護施設の子どもたちのことばかり考えていました。

私は彼らの期待に応えているだろうか？

映画の中でアーサーは、形式的な質問しかない市のカウンセラーや、親切なふりをして実は馬鹿にして近づいてくる同僚に、憎しみを覚えます。

彼らにとって、私はどんな存在なんだろうか…。

私には、愛する人たち、大切な人たちがたくさんいます。家族がいて、会計事務所のスタッフがいて、クライアントがいて、学生時代からの友人がいて、税理士などの仲間がいて、そして支援している子供たちがいます。その中の誰かが助けを求めてきたら、もちろん自分にできる限りのことをして、助けに行きます。

でも…。

児童養護施設の子どもたちは、やはり特別です。もし私の気持ちや、彼らの求める本気度に足りなかったら、彼らは「裏切られた」と感じるのではないかと思うからです。

彼らを裏切ってはいけません。

『ジョーカー』を観ながら、ずっとその思いが頭をよぎっていました。

クライアントだった戸沢暢美の死をきっかけに戸沢財団を設立したのは、今から8年前のことです。彼女の遺志を受け継ぎ、恵まれない子どもたちを支援する活動を模索していくなかで、児童養護施設の子どもたちに出会いました。自分が生きる理由をなかなか見つけられない彼らの心模様は、ストレートに私の心とシンクロしました。

世の中で起きることは、すべてが必然。私は出会うべくして戸沢暢美と出会い、児童養護施設でRちゃんと

最初の出会いをしたのです。

その後も数人の子どもたちと、卒業後も定期的に食事したり、転職の相談に乗るような関係性を続けています。

施設の職員さんには連絡しなくても、困ったときに相談してくれる子ども。施設を卒業するとき登録してあった親の携帯番号は、もう削除したと打ち明けてくれる子ども。



子ども達との手作り

正直なところ、私は税理士になろうと計画してなった訳ではありません。結婚し、大家族での同居が息苦しくて外出する理由欲しさに税理士の勉強をし、せっかく合格したのだから…と軽い気持ちで始めた会計事務所。

いわば成り行きでなった税理士の仕事で、戸沢暢美と出会い、彼女の死をきっかけに始めた活動です。私は志の高い人間ではないので、戸沢暢美との出会いがなければ、間違いなくボランティア活動はやっていなかったでしょう。

会計事務所を運営するかたわら、児童養護施設の子どもたちと深く関わるような日々が訪れるなんて、20代の自分には想像すら出来ませんでした。

税理士試験の発表も終わりました。合格できなかった人にこれだけは伝えたい。どんなに遠く見えても、あの峠の向こうには、予想もしなかった素敵な未来が必ず待っているから。足元は岩だらけかもしれない、倒木が遮っているかもしれない、それでも小石につまづきながらも、少しずつ、少しずつ前に進めば、思いもかけない素晴らしい人生に辿りつけるからと。

令和元年
10月10日
発売!!

相続・贈与と生命保険をめぐる
トラブル予防・対応の手引

共著 中込 一洋(弁護士)、遠山 聡(専修大学法学部教授)、
原 尚美(税理士)

新日本法規出版 4,500円+税

民法・保険法・税法等の各分野に精通した専門家の共著による、相続税改正に対応した最新の内容です!【Q&A編】では、相続・贈与に伴い保険給付で問題となる場面を設定し、法務・税務の両面から解説。【事例編】では、相続・贈与をめぐる保険金請求権の有無等が争点となった重要な判例・裁判例を取り上げ、裁判所等の判断を紹介した上で「コメント」を加えています。是非、ご活用ください。

相続・贈与と生命保険をめぐる
トラブル予防・対応の手引

共著 中込 一洋(弁護士)
遠山 聡(専修大学法学部教授)
原 尚美(税理士)

新日本法規出版